

令和6年度秋田県放課後児童支援員認定資格研修 研修レポート抜粋

(誤字脱字等については校正しているため、原文と異なる場合があります)

県央会場

科目 ⑭安全対策・緊急時対応

- ◆ この講義で学んだことは、安全キーワードです。「ちょ、き、さの法則」ちょっとストップ、きちんと説明、さっと再開、これをどんな場面でも活用できるようにしていきたいと思いました。「3つの眼」からは、全体的に広い範囲から子どもの目線になってみるようにし、これを踏まえて、小さくても細かいところまでチェックし、指導員が人任せにせず、日々の安全チェックを心がけて過ごしていくことが大事だと思いました。
- ◆ 安全点検、危険予測を考えたときの自分の視点を振り返ると、児童の目線で見たり、高いところから広く見たりということができておらず、大人が目線で見ていることを反省した。安全対策は、大人が管理監督するだけでなく、子ども自身が安全に自分の身を守る力をつけさせるということも重要だと再確認した。避難訓練やいざというときのための対応方法などのカリキュラムも加え運営します。
- ◆ 安全重視に重きを置くと、子どもののびのびした活動を阻害してしまう可能性があり、兼ね合いが難しい、との講師の言葉に共感を覚えました。保護者には、丁寧になどのような遊びか説明を行い、了解を得られるようにする。情報共有と信頼関係の大切さを再確認できました。今回学んだ安全対策と緊急時対応は、見直しの機会と考え、対策・対応に努めていきたいと思います。
- ◆ 改めて安全対策について考えてみると、基本的なことが重要になると思う。自分の身を守る能力を身につける、事故防止策では禁止事項が多くなると活動の魅力が失われる、などの点が改めて大事なことだと思った。「3つの眼」(鳥の目、虫の目、人間の目)については、初めて聞いたが、1つの対象物を多方面から見るのが大事ということが分かった。日常で見落としているかもしれない点をもう一度振り返りたいと思う。
- ◆ 本研修を通して、子どもを守るのは児童支援員としての大きな役割であることを再認識した。事故やケガは日常の中にあり、これらに対して、絶対の安全策はない。しかし、事故やケガを未然に防ぐことは可能である。子どもたちの安全に対する能力を育成し、大人が守る環境を整えていくことが重要だと学んだ。また、その際は、人任せにせず、大人数の目で正確に確認し、全員で安全を確認していくことを大切にしていきたい。